

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 1 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100975		
法人名	社会福祉法人正仁会		
事業所名	グループホームなごみの郷可部		
所在地	広島市安佐北区可部3丁目9番21号 (電話) 819-0505		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100975-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年1月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所はグループ理念をもとに、事業所独自の具体的な目標をつくり地域に密着した介護サービスの提供に取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、訪問行事は中止しているが、以前は、公民館を拠点に活動している複数のサークルやボランティアの定期的な訪問がありその際には家族、地域と共に支援を踏まえ家族様やご近所の方々にも案内をし協力をいただいていた。</p> <p>当施設として、「その人を知る」「その人を知りたい」「思いに寄り添う」の3つの姿勢で人生の最終ステージにおられる方々の第2の家族を目指している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>第一に「理念の共有と実践」に深化が見られる。理念をもとに事業所は年度目標を策定し今期は「職員間の情報共有・ケアの統一化」を掲げ、食事班等、五つのケア班が毎月の班会議でその達成度を具体的に検証している。利用者の体位保持にクッションを導入し、介護方法の掲示や実技指導を通して段階付け・根拠づけを徹底して「ケアの統一化」に繋げた例もある。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」に深化が見られる。コロナ禍で外出自粛となり、事業所内での活動の見直しから生活体力作りの個別プログラムの策定やユニット交流の合同レクリエーションの実現で、利用者の仲間作りや職員間のコミュニケーションも増えて「最期までできる事を支援する・生きる力へのチームアプローチ」に繋げている。</p>

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療と介護の切れ目のない連携を第一に考え、利用者及び家族、地域住民の皆様へ安心して提供し続けることを理念としている。地域密着型サービスを踏まえた項目である「地域と共に生きがい探し」を目指し、定期的に慶福訪問を受けていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、外部との行事は控えている。	法人理念を掲示、毎日唱和して意識統一を図り、理念をもとに事業所は年度目標を策定、年度末の職員会議で検証している。今期は「職員間の情報共有・ケアの統一化」を掲げ、食事班等、五つのケア班が毎月の班会議でケア実践を振り返り、年度目標の達成度を具体的に検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の各種ボランティアの受け入れや、町内会に入会、廃品回収の協力や清掃活動に加え防災訓練の参加及び集合場所としての協力をしている。月1回(毎月第二金曜日)は認知症カフェを行っていたが現在は状況に合わせて実施している。	町内会に加入し、コロナ禍前は清掃等の地域活動や夏・秋祭り他の行事に参加したり、傾聴ボランティア等も受け入れる相互交流をしている。事業所交流スペースを利用した毎週のいきいき百歳体操は現在中止だが、毎月の認知症カフェは状況に応じ実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの入居申し込み者が、満床の為待機中の場合、機会ある毎に支援の相談に応じている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	消防訓練へ運営推進会議の委員に参加して頂き「意見」を反映し訓練の改善をしている。会議内で事業所の取り組み「リスクマネジメント」・「看取り」についても報告し意見を頂いている。	以前は家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員が参加していたが、コロナ禍では昨年6月のリモート会議の他は書面会議となっている。リスク管理等の運営情報も発信しており、今迄にも町内会との防災協定の締結やいきいき百歳体操への会場提供等、意見の反映例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には毎回、市の担当職員へ出席依頼を行っている。また、必要時において市職員と連絡をおこない、介護保険に関する事などを確認し、サービスの質の向上に繋げるように努めている。	地域包括支援センターとは運営推進会議の事前照会で情報を共有している。市担当課とは日頃の相談・報告の他、行政主催の研修へのオンライン参加や地域包括支援センター主催の認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・いきいき百歳体操への参加等を通して協力し連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	十分理解している。「身体拘束等の排除の理念及び方針」を各フロアに掲示し真摯に取り組んでいる。玄関の施錠はしていないが2階建ての為、階段への扉は電子錠になっている。しかし、利用者の行動は制限することなくいつでも自由に職員が付き添いフロアから出ることができる。	事業所の年4回の適正化委員会や法人年2回・事業所年4回の研修会等を通し職員は「拘束をしない」必要性を認識して具体的なケアの中で実践を重ねている。不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	グループホーム会議で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。傷、アザなどが発生した場合は事故報告を速やかに挙げカンファレンスをしている。「いつ発生したか」「何が原因と考えられるか」等、話し合い全職員が情報の共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者に関する権利擁護の研修会に参加している。また、権利擁護に関するマニュアルを整備している。該当するケースはまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には利用者や家族に分かりやすいように担当責任者から十分な説明を行い、理解・納得を得ている。契約時には契約書、重要事項説明書を読み上げ、特におこりうるリスクについてはリスク説明書をもちいて詳しく説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	前年度は家族等意見を聞き反映していたがコロナ感染症予防の観点から実施出来ず。面会等来設された際に情報交換を実施し代表者会議等にて本部へ伝達し家族等の意見の反映している。今後感染症の状況に合わせて家族会等を再開を検討している。	コロナ禍で家族会は中止だが、家族の要望は面会・電話連絡等を介して把握し、それを職員は全体会議等で共有して迅速な対応に努めている。現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族からの提案で週1回近くの自宅に帰る事で不穏になりがちな利用者の精神的な安定に繋げた経緯がある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の定期的な会議及び、ミーティング時に意見を出し合っている。また、職員は月に1回、管理者との面談の機会があり、出された意見は管理者から代表者にその旨伝えている。	毎月の全体会議、随時又は毎月の個別面談等を通し、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。利用者の体位保持にクッションを導入し、介護方法の掲示や実技指導を通して、年度目標である「ケアの統一化」に繋がった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員に担当業務(役割)を設定して、日々の業績も含め、定期的な上長と面談を行い各職員のモチベーションの向上に繋がるように努めている。また、資格取得に向けた支援も行っている。ポイント制も取り入れており内部研修参加時等に取得したポイント数に応じ書物の購入や外部研修参加費用に使用できる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	等級に応じた「育成研修」が開催されている。法人内研修については年100回以上予定されており、職員には自身の課題を分析してもらい、個々に合わせた研修に4回/年参加を促している。(今年度はコロナウイルス感染防止のため、実施できていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症カフェを月1回(毎月第二金曜日)当事業所で開催していたが現在コロナ感染症予防に合わせて実施している、地域包括支援センターの職員や、近隣のグループホームの職員の参加がある。その際、意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、本人と家族に会う機会を出来るだけ多くもち(施設見学・他のサービス利用時や自宅に伺う)担当責任者及び介護支援専門員、計画作成者が生活暦や生活状態を把握した上で不安や要望を引き出し十分に話を聴くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用初期においては、細やかな電話連絡や来設時などの報告・連絡を行うことで良好な関係を構築できるように努めている。特に要望は「サービスの質」を高める為に必要な相談と受け止めている旨を家族に伝え「相談しやすい」雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にしっかりと話を伺った上で、他のサービスを含め考えられる支援について、介護支援専門員と相談しながら情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りに努めている。出来ることはして頂き、出来るだけ感謝の言葉を伝える場面を作っている。令和4年度よりレク班を立ち上げ、月に一度利用者同士の交流が出来る環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	契約時には利用者に対しては、「常に家族と共に支援」が法人の方針である旨を伝え理解を得ている。来設時の散歩のお願いや家族への電話要望への対応のお願いをしている。また、一ヶ月の予定表(カレンダー)を渡し、行事等に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみならず、友人・知人も来設されている。また、来設された際は、普段の様子を写真つきで伝えている。(コロナウイルス感染防止のため、面会制限をかけている。現在も継続中)	地域との絆を大切に地域行事・美容院の利用等を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。今はコロナ禍ではあるが、窓越し面会、会員制交流サイトを介したりリモート面会や利用者の近況を書いた一筆箋と写真送付等、寄り添った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話し好きであったり、世話役が得意な方に協力して頂くことで、互いの存在が認識できる場面を作り、その中で支えあえるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院及び転居した際も機会をみてお見舞いがてら訪れるようにしている。死亡退所された方のご家族にはグリーフケアの一つとして、四十九日と一回忌に思い出のアルバムや職員のメッセージを送付させていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情や言葉の中から本人の思いを把握するように努めている。本人の要望を把握し実現できるように、適切なアセスメント様式を活用して意向の把握に努めている。	職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち、思いを汲み取って連絡ノート・生活アセスメント表・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。生活歴から食器洗いを打診・立案したり、表情に出にくい利用者が風呂で見せた良い顔から毎日の足浴・手浴に繋がった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族、サービス提供事業者からの事前面談及び随時の情報収集を元に生活歴等を把握し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前情報だけにとらわれず生活の中で寄り添い、できる力を見落とさないように努めている。また、生活状況の観察及び記録を元に、カンファレンスを実施し全職員での情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成にあたっては、まず本人、家族の意志・要望の再確認をし、居室担当職員及び他の職員の気付きから作成している。日々のケア記録を併せて関係者の意見を踏まえたプランを作成している。</p>	<p>「その人を知る・知りたい・思いに寄り添う」を基本に居室担当職員や他職員の気づきを踏まえ関係職種の意見も反映した立案に努めている。3ヶ月を基本にモニタリング・計画を見直している。週1回近くの自宅に帰る事で不穏になりがちな利用者の精神的な安定に繋げた立案例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録や経過表、カンファレンス及びヒヤリハット等の記録を全職員は目を通し、情報の共有に努めている。また、記録を元にした計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の状態に応じて、法人内に所属する理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士などの専門スタッフからアドバイスを受けることで柔軟に対応している。同一法人内の行事にも参加し交流を深めている。また、医療機関への受診の際は家族の状況によっては職員が同行している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアバンク（傾聴ミミの会）の訪問が定期的であり、なじみの関係となっている。また地域の祭りへの参加や子ども会の神輿の訪問も受け、地域とのなじみの関係作りに努めている。（コロナウイルス感染防止のため、現在は中止している）</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的な往診及び医療機関への受診の際には職員も同行し、適切な医療が受けられるように支援している。定期的な歯科の往診があるが、これまでのかかりつけ医の受診希望者には継続して受診できるように支援している。</p>	<p>元々母体病院にかかっている利用者が多く、全利用者は母体病院を協力医としている。その他、協力歯科・心療内科から各々、各階に月1回の訪問診療がある。更に眼科・皮膚科の協力医院や週1回の訪問看護ステーションとの連携も図り、適切な医療を受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間体制での訪問看護事業所との連携により、定期的及び随時の相談・訪問を実施している。個別ケア記録の他に医療連携シートを作成し、利用者の状態変化や気づきを細やかに記録し、より速やかに医療との連携がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制での医療連携体制は整っており、入院時においても、主治医や病棟看護師長との密なる情報交換を行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医をはじめとした医療との連携により、最期までその人らしく過ごせるように配慮している。また、本人が安心、安全に過ごせるためにホームが対応しうる支援方法を踏まえ、方針をスタッフと話し合い全員で共有している。基本的には本人、家族が希望すれば施設で看取りを行うようにしている。	要望があれば看取りを行う。利用開始時に重度化した場合の対応及び看取りに関する指針を説明し了承を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。開設から5年で11例を看取り、グリーンケアや振り返り会議も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に訪問看護事業所からの指導を仰いでいる。また、吸引器・携帯酸素の使用方の訓練を定期的実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2回/年(夜間時を含む)利用者が参加しての避難訓練を実施しており消火器の使用方や避難経路の確認及び誘導について全職員が把握している。避難訓練の際は近所にお知らせし関心を持って頂くように努めている。また、町内会と防災協定を締結しており、災害時における地域との協力体制は確保できている。	消防署指導の下、昼の避難訓練には町内会長が参加したり、18時からの夜間訓練は夜勤者と利用者で実施している。事業所は洪水想定区域内にあり、年1回の防災訓練では車いす毎、2階に垂直避難する等、実践している。町内会と防災協定を締結し、減災対策の備蓄整備にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を大切に、受容と傾聴を常に心掛けるように職員に啓発している。「もし自分だったら」「もし自分の家族だったら」の視点にたったケアが基本であることを繰り返し教育している。帳簿類については、個人情報保護の観点に基き適正な取扱いをしている。	管理者は職員に日頃の言動を自分に置き換え対応することで尊厳に配慮したケアに気づく様啓発している。トイレで車いす使用時に戸が閉め切れず目隠しカーテンで覆う等、プライバシーにも配慮している。又利用者名のある物は他利用者の目に触れない様、個人情報も大切に扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自然な感情や思いが表出できるよう個々に合わせた支援をしている。出来ることは個々に応じた声掛けでして頂き出来ないところをさりげなくお手伝いするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ねあるが本人のペースや要望に添うように支援している。起床・就寝時間、食事の時間、入浴時間も希望があれば出来るだけその思いに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的には、出張理美容サービスを受けている。その際に希望する髪形(パーマや染め等を含む)を伺い、理美容師に対応してもらっている。本人の望むなじみの美容院に行かれる利用者もおられる。希望される利用者には化粧等をお手伝いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備から片付けまで、できることは職員と一緒に手伝っていただくようお願いしている。利用者と職員と一緒に楽しい雰囲気の中で食事ができるように努めている。ご利用者の希望を聴き、外食に出かける機会ももうけている。(コロナウイルス感染防止のため、3月より外食は控えている)	食事は外注のレトルト食を温めご飯を添えて提供している。プランターの野菜も活用し、月1回の手作りクッキング、喫茶の日、海鮮丼の出前等、楽しみな工夫もある。利用者も手袋をつけ小鉢に取り分ける等行っている。高さの異なる3種のいす等、食事姿勢にも配慮している。	

お

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	外部委託による量や栄養バランスのとれ た食事を提供している。また，個別に量 の調整や食形態の変更などの対応を行っ ている。 摂取量（食事・水分）は記録している。 水分摂取量は1,000～1,500cc／1日を目 標にし，そのために飲み物の工夫やゼ リーを準備する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は適切な口腔ケアが及ぼす健康維持 への効果を理解しており，毎食後に必ず 口腔ケアを実施している。自分ででき る方においても，必要に応じ口腔内の確認 を行うことにしている。また，個別の口 腔内状態，口腔ケア方法，実施状況や評 価の一覧を作成し情報の共有及びケアの 統一を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を元に，排泄パターンに 添った対応ができています。また，でき 限りトイレでの排泄を促している。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把 握しトイレ誘導を基本としている。便座 に座って特殊な手すりに寄りかかり腹圧 をかけ自力で排便し易くする工夫等，排 泄の自立支援に向けた支援もある。夜間 排泄時の転倒防止のためポータブルトイ レやセンサーを設置する等の環境整備も ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防として，個々の排便状況ならび に食事および水分摂取量と内容には常に気 を配っている。また，一日の活動量も踏ま えると共に，下剤使用者については排便間 隔および便の性状を常に確認している。ま た，便秘傾向の方にはまず，乳製品（牛 乳・ヨーグルト等）を提供し自然排便を促 している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日ごとに一応の入浴予定は決めてある が，無理な促しはしないようにし，タイ ミングがあれば入浴していただき，時間 や曜日の変更は随時に行っている。 希望者はその都度入浴していただいでい る。手浴・足浴や清拭も要望や状態に応 じ施行している。	週2回の午後浴が基本だが，利用者の体 調や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間 等，柔軟に対応している。利用者の状況 によりシャワー浴や足浴等で対応した り，冬至に柚子湯を提供することもある。 要望があれば同性介助も可能で，入 浴が貴重なコミュニケーションの場とも なっている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの表情や体調を考慮し日中の活動への支援をしている。天候の良い日は出来るだけ外気浴を兼ね散歩をしている。ソファを設置しさりげなく休息できるように努めている。 メンタル的な不安等に対しては、添い寝などを行い、安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の服薬目的および内容を理解しており、適切な服薬支援をしている。また、誤薬防止の観点から複数人による確認体制を徹底するように努めている。薬に関する疑問等は常に訪問看護師や薬剤師に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の要望や家族からの情報を元に体操や歌、パズルやぬり絵のアクティビティーや洗濯干し、洗濯たたみなどの家事を個々の状況に応じて負担にならないように配慮しながら行ってもらっている。支援の中で新たな発見もあり要望に応じて役割りをもっていたいでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段行けないような場所への外出レクリエーションは事前に計画を立て家族に協力して頂き支援している。近隣のスーパーへの買い物については要望に応じて支援している。 (コロナウイルス感染防止のため、外出は控えている)	コロナ禍で近隣の川沿いの散歩や受診や年末のイルミネーション見物ドライブ以外の外出は自粛中である。新型コロナウイルスの収束状況により、従来実施していた花見・紅葉狩り等、季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、日常的な買物等で気分転換を図りたい意向がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者による直接的な金銭管理は行なわれていないが希望する購入品があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。 (コロナウイルス感染防止のため、外出は控えている)		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、利用者から手紙を出すことはないが電話連絡の要望にはその都度、施設の電話を使用して対応している。面会制限をしているため、必要に応じてLINE電話などのリモート面会を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができる。ソファ等も設置しくつろげるスペースになっている。ホールには職員と一緒に製作した季節感あふれる作品を飾っている。また、食事作りの音や匂いが立ちこめたりと季節や生活を五感で感じ取れるように努めている。	プランターの野菜や季節行事の飾り付け、利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいが感じられるよう工夫している。利用者も洗濯物畳み等を手伝い生活感を取り入れている。トイレに特殊な手すりの設置等、自立支援に向けた環境整備もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアともテーブルおよび椅子を配置したスペースとソファを配置したスペースがあり、それぞれの入所者の思いにより自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みのある身の回り品や写真、家具等を持ってきていただくようにしている。また、状況によっては居室環境を和室風に変更することも可能である。	居室にはベッド・エアコン等が備え付けられ、テーブル等、使い慣れた物や位牌等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、夜間排泄時の転倒防止のため赤外線離床センサー等を設置したり、ベッドから居室扉までの導線確保のため物の配置を変える等の工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況にあわせ、玄関、トイレ、廊下や風呂場に手すりを設置するなどし、安全確保と自立への配慮をしている。定期的及び随時のカンファレンスにより出来るだけ現状を維持できるように環境作りに取り組んでいる。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療と介護の切れ目のない連携を第一に考え、利用者及び家族、地域住民の皆様へ安心を提供し続けることを理念としている。地域密着型サービスを踏まえた項目である「地域と共に生きがい探し」を目指し、定期的に慶福訪問を受けていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、外部との行事は控えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域の各種ボランティアの受け入れや、町内会に入会、廃品回収の協力や清掃活動に加え防災訓練の参加及び集合場所としての協力をしている。 ・月1回(毎月第二金曜日)は認知症カフェを行っていたが現在は状況に合わせて実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの入居申し込み者が、満床の為待機中の場合、機会ある毎に支援の相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	消防訓練へ運営推進会議の委員に参加して頂き「意見」を反映し訓練の改善をしている。会議内で事業所の取組み「リスクマネジメント」・「看取り」についても報告し意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には毎回、市の担当職員へ出席依頼を行っている。また、必要時において市職員と連絡をおこない、介護保険に関する事などを確認し、サービスの質の向上に繋げるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	十分理解している。「身体拘束等の排除の理念及び方針」を各フロアに掲示し真摯に取り組んでいる。玄関の施錠はしていないが2階建ての為、階段への扉は電子錠になっている。しかし、利用者の行動は制限することなくいつでも自由に職員が付き添いフロアから出ることができる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	グループホーム会議で定期的に啓発している。また、研修会にも参加し、事業所内での防止に努めている。傷、アザなどが発生した場合は事故報告を速やかに挙げカンファレンスをしている。「いつ発生したか」「何が原因と考えられるか」等、話し合い全職員が情報の共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者に関する権利擁護の研修会に参加している。また、権利擁護に関するマニュアルを整備している。該当するケースはまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には利用者や家族に分かりやすいように担当責任者から十分な説明を行い、理解・納得を得ている。契約時には契約書、重要事項説明書を読み上げ、特におこりうるリスクについてはリスク説明書をもちいて詳しく説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	前年度は家族等意見を聞き反映していたがコロナ感染症予防の観点から実施出来ず。面会等来設された際に情報交換を実施し代表者会議等にて本部へ伝達し家族等の意見の反映している。今後感染症の状況に合わせて家族会等を再開を検討している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の定期的な会議及び、ミーティング時に意見を出し合っている。また、職員は月に1回、管理者との面談の機会があり、出された意見は管理者から代表者にその旨伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員に担当業務(役割)を設定して、日々の業績も含め、定期的な上長と面談を行い各職員のモチベーションの向上に繋がるように努めている。また、資格取得に向けた支援も行っている。ポイント制も取り入れており内部研修参加時等に取得したポイント数に応じ書物の購入や外部研修参加費用に使用できる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	等級に応じた「育成研修」が開催されている。法人内研修については年100回以上予定されており、職員には自身の課題を分析してもらい、個々に合わせた研修に4回/年参加を促している。(今年度はコロナウイルス感染防止のため、実施できていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症カフェを月1回(毎月第二金曜日)当事業所で開催していたが現在コロナ感染症予防に合わせて実施している、地域包括支援センターの職員や、近隣のグループホームの職員の参加がある。その際、意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談から利用に至る過程において、本人と家族に会う機会を出来るだけ多くもち(施設見学・他のサービス利用時や自宅に伺う)担当責任者及び介護支援専門員、計画作成者が生活暦や生活状態を把握した上で不安や要望を引き出し十分話を聴くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用初期においては、細やかな電話連絡や来設時などの報告・連絡を行うことで良好な関係を構築できるように努めている。特に要望は「サービスの質」を高める為に必要な相談と受け止めている旨を家族に伝え「相談しやすい」雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にしっかりと話を伺った上で、他のサービスを含め考えられる支援について、介護支援専門員と相談しながら情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で、これまでの生活の継続性を重視した役割作りに努めている。出来ることはして頂き、出来るだけ感謝の言葉を伝える場面を作っている。令和4年度よりレク班を立ち上げ、月に一度利用者同士の交流が出来る環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	契約時には利用者に対しては、「常に家族と共に支援」が法人の方針である旨を伝え理解を得ている。来設時の散歩のお願いや家族への電話要望への対応のお願いをしている。また、一ヶ月の予定表(カレンダー)を渡し、行事等に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族のみならず、友人・知人も来設されている。また、来設された際は、普段の様子を写真つきで伝えている。(コロナウイルス感染防止のため、面会制限をかけている。現在も継続中)		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話し好きであったり、世話役が得意な方に協力して頂くことで、互いの存在が認識できる場面を作り、その中で支えあえるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院及び転居した際も機会をみてお見舞いがてら訪れるようにしている。 死亡退所された方のご家族にはグリーフケアの一つとして、四十九日と一回忌に思い出のアルバムや職員のメッセージを送付させていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情や言葉の中から本人の思いを把握するように努めている。本人の要望を把握し実現できるよう、適切なアセスメント様式を活用して意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族、サービス提供事業者からの事前面談及び随時の情報収集を元に生活歴等を把握し、その人らしい暮らしが送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前情報だけにとらわれず生活の中で寄り添い、できる力を見落とさないように努めている。また、生活状況の観察及び記録を元に、カンファレンスを実施し全職員での情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成にあたっては、まず本人、家族の意志・要望の再確認をし、居室担当職員及び他の職員の気付きから作成している。日々のケア記録を併せて関係者の意見を踏まえたプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録や経過表、カンファレンス及びヒヤリハット等の記録を全職員は目を通し、情報の共有に努めている。また、記録を元にした計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の状態に応じて、法人内に所属する理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士などの専門スタッフからアドバイスを受けることで柔軟に対応している。同一法人内の行事にも参加し交流を深めている。また、医療機関への受診の際は家族の状況によっては職員が同行している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアバンク（傾聴ミミの会）の訪問が定期的であり、なじみの関係となっている。また地域の祭りへの参加や子ども会の神輿の訪問も受け、地域とのなじみの関係作りに努めている。（コロナウイルス感染防止のため、現在は中止している）</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>定期的な往診及び医療機関への受診の際には職員も同行し、適切な医療が受けられるように支援している。定期的な歯科の往診があるが、これまでのかかりつけ医の受診希望者には継続して受診できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間体制での訪問看護事業所との連携により、定期的及び随時の相談・訪問を実施している。個別ケア記録の他に医療連携シートを作成し、利用者の状態変化や気づきを細やかに記録し、より速やかに医療との連携がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間体制での医療連携体制は整っており、入院時においても、主治医や病棟看護師長との密なる情報交換を行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医をはじめとした医療との連携により、最期までその人らしく過ごせるように配慮している。また、本人が安心、安全に過ごせるためにホームが対応しうる支援方法を踏まえ、方針をスタッフと話し合い全員で共有している。基本的には本人、家族が希望すれば施設で看取りを行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時については、マニュアルに沿って対応している。応急手当や初期対応については、必要に応じて随時に訪問看護事業所からの指導を仰いでいる。また、吸引器・携帯酸素の使用方の訓練を定期的実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2回/年(夜間時を含む)利用者が参加しての避難訓練を実施しており消火器の使用方や避難経路の確認及び誘導について全職員が把握している。避難訓練の際は近所にお知らせし関心を持って頂くように努めている。また、町内会と防災協定を締結しており、災害時における地域との協力体制は確保できている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を大切にし、受容と傾聴を常に心掛けるように職員に啓発している。「もし自分だったら」「もし自分の家族だったら」の視点にたったケアが基本であることを繰り返し教育している。帳簿類については、個人情報保護の観点に基き適正な取扱いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自然な感情や思いが表出できるよう個々に合わせた支援をしている。出来ることは個々に応じた声掛けでして頂き出来ないところをさりげなくお手伝いするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ねあるが本人のペースや要望に添うように支援している。起床・就寝時間、食事の時間、入浴時間も希望があれば出来るだけその思いに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的には、出張理美容サービスを受けている。その際に希望する髪形(パーマや染め等を含む)を伺い、理美容師に対応してもらっている。本人の望むなじみの美容院に行かれる利用者もおられる。希望される利用者には化粧等をお手伝いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備から片付けまで、できることは職員と一緒に手伝っていただくようお願いしている。利用者と職員と一緒に楽しい雰囲気ですることができるよう努めている。ご利用者の希望を聴き、外出に出かける機会ももうけている。(コロナウイルス感染防止のため、3月より外出は控えている)		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	外部委託による量や栄養バランスのとれた食事を提供している。また、個別に量の調整や食形態の変更などの対応を行っている。 摂取量(食事・水分)は記録している。 水分摂取量は1,000~1,500cc/1日を目標にし、そのために飲み物の工夫やゼリーを準備する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員は適切な口腔ケアが及ぼす健康維持への効果を理解しており、毎食後に必ず口腔ケアを実施している。自分でできる方においても、必要に応じ口腔内の確認を行うことにしている。また、個別の口腔内状態、口腔ケア方法、実施状況や評価の一覧を作成し情報の共有及びケアの統一を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を元に、排泄パターンに添った対応ができています。また、できる限りトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防として、個々の排便状況ならびに食事および水分摂取量と内容には常に気を配っている。また、一日の活動量も踏まえると共に、下剤使用者については排便間隔および便の性状を常に確認している。また、便秘傾向の方にはまず、乳製品(牛乳・ヨーグルト等)を提供し自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日ごとに一応の入浴予定は決めてあるが、無理な促しはしないようにし、タイミングがあれば入浴していただき、時間や曜日の変更は随時に行っている。 希望者はその都度入浴していただいている。手浴・足浴や清拭も要望や状態に応じ施行している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの表情や体調を考慮し日中の活動への支援をしている。天候の良い日は出来るだけ外気浴を兼ね散歩をしている。ソファを設置しさりげなく休息できるように努めている。 メンタル的な不安等に対しては、添い寝などを行い、安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の服薬目的および内容を理解しており、適切な服薬支援をしている。また、誤薬防止の観点から複数人による確認体制を徹底するように努めている。薬に関する疑問等は常に訪問看護師や薬剤師に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の要望や家族からの情報を元に体操や歌、パズルやぬり絵のアクティビティーや洗濯干し、洗濯たたみなどの家事を個々の状況に応じて負担にならないように配慮しながら行ってもらっている。支援の中で新たな発見もあり要望に応じて役割りをもっていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段行けないような場所への外出レクリエーションは事前に計画を立て家族に協力して頂き支援している。近隣のスーパーへの買い物については要望に応じて支援している。 (コロナウイルス感染防止のため、外出は控えている)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者による直接的な金銭管理は行なわれていないが希望する購入品があれば、職員と一緒に買い物に出かけている。 (コロナウイルス感染防止のため、外出は控えている)		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在、利用者から手紙を出すことはないが電話連絡の要望にはその都度、施設の電話を使用して対応している。面会制限をしているため、必要に応じてLINE電話などのリモート面会を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が集うリビングの採光は適切で、日中は明るい雰囲気を感じることができる。ソファ等も設置しつろげるスペースになっている。ホールには職員と一緒に製作した季節感あふれる作品を飾っている。また、食事作りの音や匂いが立ちこめたりと季節や生活を五感で感じ取れるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各フロアともテーブルおよび椅子を配置したスペースとソファを配置したスペースがあり、それぞれの入所者の思いにより自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みのある身の回り品や写真、家具等を持ってきていただくようにしている。また、状況によっては居室環境を和室風に変更することも可能である。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況にあわせ、玄関、トイレ、廊下や風呂場に手すりを設置するなどし、安全確保と自立への配慮をしている。定期的及び随時のカンファレンスにより出来るだけ現状を維持できるような環境作りに取り組んでいる。		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなごみの郷可部

作成日 令和5年3月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	○職員間の情報共有。	○毎月の全体会議に加え、各担当班でもミーティングも行い、情報共有を図る。	○毎月の全体会議に加え、各班(食事、入浴、排せつ、レク)でもミーティングを行い、年間目標を定めて実行する。 ○ミーティング内容を議事録として残し、全体会議で全体に共有する。	毎月
2	26	○職員によってケア方法が違うことがある。	○ケアの統一。 ※全職員が同じケアができる。	○申し送り時に利用者のケア方法について話をする時間を作る。	2か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。